

戦略教材開発物語

【マル秘メルマガ】より

13 通目



◆ 5. 富士山の頂上で休業を決める

講演の合い間を利用して書いた1年分の原稿を全部捨てたあと、今後どうするかジックリと考えました。

解決策は1つしかありません。

それは講演を全て断り、休業することです。

休業すると、原稿書きに多くの時間が使えるばかりか体の疲れも少なくなりますから、たとえ文章を書く脳力が低くても、どうにかなるはずです。

ところが当時、講演の収入と出版による著作権の収入を合わせると、2年前が4,500万円、1年前は5,000万円になっていましたから、講演を辞めてしまうとこれらの収入が入って来なくなります。

「ウーン、4,500万円のお金を捨てるのはもったいない。」

「ウーン、5,000万円の収入を捨てるのは惜しい」と、つい目先の欲が出てきます。

しかもフルラインを完成させるには、5年間も休業しなければならないのでこれを合計すると、2億円を失うことになる。

「ウーン、2億円を捨てるのはもったいない」と、ますます目先の欲に目がくらんでくるわけです。

しかし休業にしないとフルラインは完成しないと、迷いに迷っていました。

その時ふと目に入ってきたのが、富士山の登山ツアーの広告でした。

「よし。富士山の頂上で休業の決心をしよう。そうすれば目先の欲にとらわれて、講演を引き受けようとは思わなくなるはずだ」と思ったのです。

富士登山の日程はいくつもありましたが、キリが良く覚えてやすいように8月1日の分に、嫁さんと2人分を申し込みました。

富士山に登ってみて解かったのですが、富士山に登るのはとても大変なのです。あんなにきついとは思っていませんでした。

体が弱い人は7合目あたりで高山病にかかり、乗り物酔いと同じように吐き気がしてきます。

私の嫁さんも7合目で高山病にかかったので、道案内をしたオジさんが「これではとても無理。すぐ山を降りなさい」と言いました。

しかしこのチャンスを逃したらいつ富士山に登れるか分かりません。

そこで私は嫁さんの手を引っぱったり尻を押したりしながら、登っていきました。

途中、高山病にかかってうずくまっている人が何人もいて、登山をあきらめて下山してくる人も何人もいました。

富士山全体の9割に相当する9合目になると上り坂が急になるため、いよいよきつくなりましたが、嫁さんの尻を押しながら、励ましながら一步一步、登っていきました。

そしてようやく頂上です。

「ウアー、これが富士山の頂上かー」と、感激しました。

その日はとても天気良かったので見晴らしは最高に良く、西の方には浜名湖まで見えていたようです。

しかし嫁さんの体調は最悪で死にそうな顔をしていたので、頂上の山小屋に入って休憩することにしました。

山小屋に入ったとたん、嫁さんはバツタリと倒れ込んでしまいました。

しかし私はまだ大事な決心が残っていますから、まず腹ごしらえをしようということで、ラーメンを頼みました。

インスタントラーメンのサッポロ一番が、700円もしました。

「嫁さん。ラーメンのスープを吸うと元気が出るよ」と言ってラーメンを食べさせようとしたのですが、一口のスープも一本のラーメンも口に入らないのです。

しかし私は大事な決心が残っているので、ラーメンを一気に食べた後、「よし」と掛け声をかけて頂上の火口近くに行きました。

火口近くには大きな岩がごろごろ転がっていて、写真で見るのとは大違いです。

火口はきれいなスリバチ状になっていましてその火口に向かって「よし、来年は休業するぞ、絶対に講演を辞めるぞ!」と、大きな声で叫びました。

それとともに、近くにある大きな岩を蹴ったり石を拾って投げつけて、決心を確かなものにしました。

なぜこういうことをしたかということ、決断力が弱い人は儀式を伴った行動をしないと決心ができるばかりか、こうしないで決めたものはすぐ変えてしまうということを本で読んでいたので、こうしたのです。

これですっきりして、私たちは下山しました。

(続く)

Lanchester

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>